



認知症高齢者をささえる専門病院

シリーズ2 神経内科 患者と家族の心をつなぐ

**病気にはじまる
誤解が生むケースも**

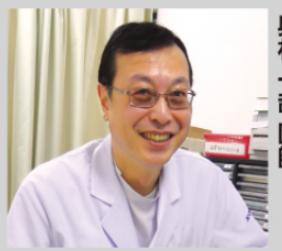
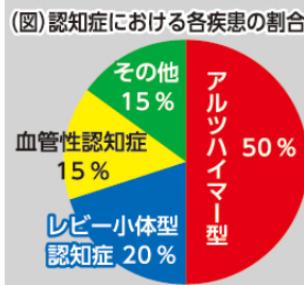
ある日、急に得意な料理を作られなくなったり、家族に嘆いた姑が、翌日に何事もなかったかのように料理を作る姿を嫁が見て、いびられたと誤解し、家族が仲になったケース。家で幽霊が孫にとりつくよう見え、身近にあった物を投げて追い払ったことが、家族からは孫に映ったケースなどもある。

レビー小体型認知症の最大の特徴は、病気の症状が変化し、一定しないこと。料理や掃除などの日常作業が出来たり、出来なくなったり、もの忘れしたり、元に戻ったり、幻覚があらわれたり、出来なくなったり、もの忘れしたり、元に戻ったり、幻覚があらわれたり、出来なくなったり、もの忘れたり、元に戻ったり、幻覚があらわれたり、出来なくなったり、もの忘れたり、元に戻ったり、幻覚があらわれたり、出来なくなったり、もの忘れたり、元に戻ったり、幻覚があらわれたり、出来なくなったり、もの忘れたり、元に戻ったり、幻覚があらわれたり、出来なくなったり、もの忘れたり、元に戻ったり、幻覚があらわれるという。

そこで泉州地域の医療機関では、数少ない神経内科の常勤医がいる白井病院の奥村一哉医師（医学博士）写真IIに「レビー小体型認知症」という病気にについて聞いた。

奥村医師は、「あとから、病気だからと家族に言つても、すでに出来てしまつた心のわだかまりを埋めることは難しい。この病気は治らない難病。認知機能が落ちてから入院に至るまでの進行は早く、突然死も起こるため、早期発見、早期治療が極めて重要。この病気が原因で、患者と家族の心が引き裂かれる前に繋ぎ留めたい」と話す。

▽白井病院II認知症患者を専門にみる病院。通院治療、長期継続入院、持病のある患者にも対応。医療福祉相談課にて、通院医療費の負担が軽減される「自立支援医療」の対象となる事が多い。



奥村一哉 医師

医療法人白卯会 白井病院

泉南市新家 2776

〔問〕TEL 072-482-2011(代)

白井病院医療福祉相談課

(月~土曜日 9時~17時)

www.shiraihp.or.jp

異変をチェック 3つあれば要注意

- 幻視がある
- 便秘がある
- 認知機能が変動する
- たちくらみがある
- 臭いがわからなくなった
- うつ症状が続く
- パーキンソン症状がある
- 夜、充分寝ているのに、昼うとうとする
- 寝ている時、夢の中と同じように体が動く

始まり 家族の理解が治療の

病気の進行具合を知るには、家の状況を知る必要がある。どうしても家族が来られない時は、患者の家庭でのようすを手紙に書いてきてもらうことにしているという。

患者の問題行動について、家族もおかしくなれて、家族の悩みなどをかかげる手前の相談など、般の家族の悩みごとをもサポートしている。

なる傾向がある。その対策も兼ねて、診察には患者だけでもなく、家族にもみんなで理解してもらうこ